

R2 島根県高校駅伝結果（詳報）

悲願の男女アベック出場達成！

10月31日（土）快晴でわずかな東風だが局所的に強く吹くちょっとやっかいなコンディション、浜山公園内を周回し陸上競技場トラック内でコーンを回ってから中継するテクニカルなコースで男子第71回、女子第35回島根県高等学校駅伝競争大会が行われた。

今年はコロナ感染症の影響で記録会、大会がほぼ開催されず、参加選手の中には公認の記録がない選手もいた。大会が開催されたこと自体が奇跡で関係者に感謝したい。

女子チームはライバル校に一度も先頭を許すことなく10年連続12回目の優勝を果たした。

3年前、4区途中まで常勝校に2分リードしたもののあと一步で2位に終わった本校男子チームは1、2年生中心の若いチームながら序盤から接戦を演じ、3区からリードを広げ見事に初の優勝。念願のアベック優勝を実現した。

いずれも11月22日（日）に山口県きらら博記念公園で行われる中国高校駅伝競走大会に出場する。そして12月20日（日）に、たけびしスタジアム京都（西京極陸上競技場）で行われる冬のインターハイ、男子71回、女子第32回全国高校駅伝競争大会にアベックで出場する。（敬称略）

写真提供（あたご写真館）

平高女子見事逃げ切り10連覇

○女子（今岡宥莉香、来間、福間、角、松原）のレースの様子と結果

昨年は4区福間が大会前に故障したもののどうにか間に合い予定通りのオーダーで大会にのぞみ、ライバル校のアンカーの外国人留学生に繋がる前に2分差をつけて逃げ切る想定をしていた。そして4区終了地点で2分10秒の差をつけて、アンカー勝負を逃げ切って58秒差での優勝だった。今年はコロナ感染症でライバル校の外国人留学生は新型コロナ感染症対策のため日本への入国が秋になり、昨年までなら日本の蒸し暑い時期を母国で過ごし予想を上回る力をつけていた。10月に行われた雲南ナイター記録会3000mでは今季高校生ランキング1位となる8分54秒台の記録をたたき出したのである。今大会での予想タイムは5キロ区間なら最速で15分20秒だった。大会前の浜山コースでのトライアルで松原のタイムから逆算すると4区終了地点で最低でも2分、できれば2分30秒くらい前に位置し、先頭が見えない形のレースのプランを想定した。後はそれぞれが他の4人のためにどうやってタイムを削るかである。



「ゆり、今日はおまえが悪かったかや、それとも、相手が良かったかや、どっちだや？」「両方です。」

1区は昨年区間新記録を出したものの、受験も控え秋以降調子がなかなか上がってこない3年生エースの今岡宥莉香。2年ぶりの双子対決だが妹は今年になって調子は上げてきていた。今年の記録からは最低45秒できれば1分位差をつけたいところだったがタイム差は25秒だった。レースの流れは作れたが「全国での好走を期待したい。」そして今回はライバル校に在籍する妹の頑張りを多久和コーチはたたえた。

「潜在能力はチームでも桁違い、眠れる獅子」とコーチが称す来間美月が昨年に続き2区。相手選手とはこの区間だけで1分くらい差をつけたいところだった。想定通りの素晴らしい走り、コースは異なるものの昨年の自身の2区区間賞のタイムを31秒縮め、その差を1分22秒に広げた。

3区は休校開け以降に好調が続く福間涼子。記録会が少なかったため持ちタイムは10分10秒台だが、練習の様子からは余裕で10分を切る力はある。ライバル校は予想外の昨年エース区間の1区を走った選手、故障明けと聞いていたので10分45秒くらいと予想した。福間は力通りの走りをしたが、ライバル校の選手は失速し3区終了地点で2分11秒に開いた。





4区は1年生の角桃子。春先の故障から走り切れていなかったが、雲南ナイター記録会で自己ベストを更新し、ここに来て調子をあげてきた期待の1年生。相手校の4区は昨年1区の選手だと予想ははずれたが、相手と同じタイムで走ることができればと考えていた。角は速いピッチで3キロを走りきりトラックの自己ベストよりも10秒早く中継所に飛び込んできた。4区でさらに27秒も差を広げ、トータルで2分38秒差となった。「4区でワンプラス(3人でリードする予定が4人で離れた)が生きた。」とコーチは語る。

5区アンカーは努力家でガッツのある松原のどか、雲南ナイター記録会での記録は目標16分40秒に30秒届かなかった。しかし2週間前のコーストライアルでも17分前半で走っていたので、相手が15分を切らない限りは逆転できないセーフティーリードを4区までの4人が作ってくれた。「安心感をもって走ることができました。」相手は15分49秒と従来の区間記録を1分以上更新したが、最終的には一度もリードを許すことなかった。全コースで8回コーンを折り返すタイムロスがあったがほぼ予定通りのタイムで1分7秒差をつけての完全勝利だった。全国では本校の最高記録1時間11分43秒を上回り最低でも県ナンバー32を超える順位をねらいたい。

総合ベスト3

優勝 平 田 1:13.16

2位 益田東 1:14:23

3位 石見智翠館 1:28.52



区間優勝者 ()は学年

第1区6km 今岡宥莉香(3) 21:06

第2区4.0975km 来間 美月(2) 14:05

第3区3km 福間 涼子(3) 10:26

第4区3km 角 桃子(1) 10:19

第5区5km (益田東) 15:49

2位 松原のどか(2) 17:20

平高男子接戦を制し悲願の初優勝！

○男子（志食、佐野、尾林、田原、佐々木、布野、直良）のレースの様子と結果



上を勧められて本校に進学した。スピードはピカイチで新人戦のマイルリレーを走ったほどだ。しかし足に痛みがあったのは確かだが2週間前トライアルで3~5キロ区間予定の選手のレースで凡走しオーダー落ちの可能性もあった。大会直前に3キロ区間以外の5人のメンバーが固まった時点で選手たちの話し合いから佐野の起用が決定した。佐野は県内の強豪選手とし烈な争いを演じ、区間賞の記録からわずか5秒遅れ、ライバル校とのリードをわずかに守り、エースの尾林にたすきをつないだ。

3区は長距離エースの2年尾林恒星。秋の新人戦で3000m障害で大会記録を更新し、現在日本高校生ランキング12位である。ほぼ同じ位置でたすきを受け取った尾林は途中、風よけに使われながらも安定した走りですパートし10秒の差をつけてライバル校に焦りを生ませた。この時点でほぼ優勝が見えてきた。

4区は1年生エース田原匠真。昨年の中学総体3000m優勝者で都道府県駅伝中学生代表。今年も新人戦1年5000mの優勝者。現在は本校柔道部員で世界5位の選手と同じ下宿で暮らし、勝つための様々を学んでいる。普段はお茶目な彼だがレースでは変わる。尾林のリードをさらに広げようと力走り、区間2位とは6.1秒トータルでライバル校に1分11秒に広げた。

世間は当然のことながら、常勝軍団のライバル校の優勝を確信していた。しかし大会前日のライバル校のオーダーを見て勝てると感じた。本校は例年目標としている9月の雲南ナイター記録会で男女全員走る直前に雷雨のためにレースが打ち切りとなり、歯車が狂ったのは間違いなかった。本校男子メンバーは3年生1人、1、2年生がそれぞれ5名の11人の若いチームだが、例年よりチーム内での競争が強くなり、それがプラスに影響した。何よりも仲良く、練習が楽しくてたまらない選手たちだ。平均タイムでは若干劣るが、今年は1区、3区、4区の3本柱が着実に力をつけてきたこともあり、勝負できるめどが立った。鍵を握るのは1区の志食隆希と7区アンカーで後輩から慕われる3年生の直良聖也だ。

1区の志食は記録会参加の機会が少なかつただけで、14分台の力はある。何よりも10キロを安定して走ることができる粘り強さとガッツがある。格上のライバル校の1区選手はおそらく1分差をつけてこいとの指示があるだろう。後ろにピタッとついて相手にプレッシャーをかけて最後まで食らいつき、30分台で走り、20秒遅れでつなげて3区、4区で逆転できると予想していたが、ラスト1キロですパートし島根No.1の選手に4秒差をつけて区間賞を獲得した。

2区は1年生の佐野泰斗。中学時代はサッカー部だったが顧問の先生から陸



上を勧められて本校に進学した。スピードはピカイチで新人戦のマイルリレーを走ったほどだ。しかし足に痛みがあったのは確かだが2週間前トライアルで3~5キロ区間予定の選手のレースで凡走しオーダー落ちの可能性もあった。大会直前に3キロ区間以外の5人のメンバーが固まった時点で選手たちの話し合いから佐野の起用が決定した。佐野は県内の強豪選手とし烈な争いを演じ、区間賞の記録からわずか5秒遅れ、ライバル校とのリードをわずかに守り、エースの尾林にたすきをつないだ。



同じく昨年の都道府県駅伝の代表の5区佐々木一哲も1年生ながら高校総体代替大会3000m障害2位入賞者である。粘り強さが自慢の佐々木も4区までで作ったリードを着実に守りきり11秒差の区間2位のタイムでライバル校とちょうど1分差で6区布野へつないだ。



6区は2年のムードメーカーにして、常に考えて行動ができ練習も一番頑張っている布野雅也。強豪校を倒そうと練習にはげむチームでキャプテンとして5キロ区間を走ることができるなんて当時は想像できなかった。約1年半前にさかのぼる。県高校総体3日目3000m障害決勝、第2曲走路水濠で転倒者がいた。それ自体はたまに起こることだが、その選手が医務室に運ばれてよく見ると布野だった。病院へ運ばれ診断は左足前十字靭帯損傷だった。即手術、疲労骨折でさえ半年以上かかる選手もいる。選手生活への復帰は通常そう簡単ではない。しかし懸命のリハビリと根性で復帰した。昨年11月の県駅伝で5区ランナーとしての復活である。

ここ6区からは逃げ切りを図りたいところ、布野は冷静にラップを刻み逆に焦って入ったライバル校の選手に6秒の差をつけ、区間賞獲得、7区アンカーの直良につないだ。

7区アンカーは後輩に「なおらっち」と慕われる、唯一の3年生で受験も控える直良聖也。相手は14分台の記録をもつ選手だが、すでにセーフティーリードの1分6秒差だった。後輩6人で作った貯金をだめにするわけにはいかない直良はタスキ渡し直前に後輩から声をかけられて緊張がとけたのかりラックスして入った。そして逆転をかけて突っ込んだライバル校の選手に25秒のリードを奪い区間賞、結果1分31秒差で完勝、県駅伝で男子初優勝、全国男女アベック初出場のゴールテープを切った。

コース内のコーンを合計18回折り返しての本校新記録2:12.12だった。想定より2分弱遅かったが、全国では8分台を目標に頑張りたい。





総合ベスト3

優勝 平田 2:12.12

2位 出雲工業 2:13.43

3位 明誠 2:18.29

区間優勝者

第1区10km 志食 隆希(2) 30:51

第2区3km (石見智翠館) 9:01

3位 佐野 泰斗(1) 9:06

第3区8.1075km 尾林 恒星(2) 25:41

第4区8.0875km 田原 匠真(1) 25:22

第5区3km (出雲工) 9:19

2位 佐々木一哲(1) 9:30

第6区5km 布野 雅也 15:46

第7区5km 直良 聖也 15:56

保護者、地域、卒業生の皆様へ

たくさんの皆様に応援いただきありがとうございました。3年前に常勝校をあと一步まで追い詰めた男子選手たちがついに悲願を達成し、アベック出場がかないました。若いチームで日々力がついてきたと実感します。12月20日に京都の西京極陸上競技場で行われます全国大会にご期待下さい。女子選手は10年連続で出場となり、開会式が行われれば学校長が全国表彰を受けます。ここ5年間では一番強いチームになったと周りからも言われます。今年こそビブス（ゼッケン）ナンバー32を上回る順位を目指してしっかり調整して参ります。皆様には今までと変わらぬご声援、ご助力をお願いいたします。本当にありがとうございました。

スタッフ一同



明日も笑顔で頑張ろう！！